

編集長 : 坂内良明

編集委員 : 石井宏典 塩澤諒子

京浜・船上見学会

巨艦プロジェクト、決意の船出

奥田 紘子(M1)

6月7日、豪雨のち晴天の天候の中、デザイン研メンバーを乗せて横浜の海へ船が出港しました。乗船したのは野原助手、M2 柴田・早坂、M1 鄭・平林・砂川・松尾・任・石井・筒井・吉田・奥田、そして今回の乗船会をコーディネートしてくださった都市工0Bの福島様(東亜建設)の13名。直前の豪雨を受けて、思いのほか揺れの激しい船に一同不安を抱えながら、大棧橋たもとからMM21を一望しつつ川崎工業地帯までの約2時間のクルージングとなりました。立ち並ぶ石油タンク、「ハウ

ルの動く城」のような工場、蒸気立ち上るアルミ工場など、初めて見る海からの工業地帯は圧巻でしたが、一方で鼻をつく海の匂いや老朽化する護岸など京浜臨海部の問題点も肌身で実感。各自の問題意識が高まりました。

乗船後は福島さんを交え、横浜中華街で懇親会が開催されました。自己紹介と得意技の披露がおこなわれ、メンバーの意外な一面が明らかに。柏と本郷、このメンバーで京浜臨海部の問題に立ち向かっていこうと氣勢を揚げたのでした。

あまたの研究室と行政・企業を巻き込んだ一大プロジェクト「京浜臨海部再生研究」が今年も轟音をあげて動きだした。2006年はCOE最終年度、成果が求められる勝負の3年目である。その重要な舵取りを担うメンバー達が、先週、船上からの現地見学会にのぞんだ。新加入・M1 奥田が詳細を伝える。 text photo _shii



左上から
/ 白き快速船、
棧橋裏からいざ出航
/ 煙もくもく、日本の
ダイナモ
/ 工業島・扇島を背
に真剣な面持
/ 首都高下の運河に
潜入
/ 満漢全席、誓いの
うたげ



第3回研究室会議

M2修論研究もいよいよ加速

6月6日(火)、8階会議室にて第3回研究室会議が開かれた。個性あふれる研究発表、それを迎え撃つ首脳陣の鋭くしつこい突っ込みはボリューム十分。4時間の長丁場をまったく感じさせない内容であった発表テーマは、以下の通り。

- 鈴木智香子 「一般既成市街地における街並み形成要素と合意形成に関する研究 戸田市・三軒協定を事例として」
- 楊惠亘 「台北市における再生空間の維持について」
- 三澤茂樹 「駅前の広場的空間の空間構造とアクティビティに関する研究」
- 西原まり 「地域マネジメントのツールとしての空き家利活用事業に関する考察」
- 坂内良明 「ラブホテル街形成の歴史的研究」
- (以上、M2)
- 鄭一止(M1) 「住民参加型の生活景マネジメント 生活景インベントリ化を中心に」

text_shii

ようやく一息、新宿

筆筈・落合両チーム、報告書完成

4月の年度始めより、M1中心にほとんどノン・ストップで走り続けてきた新宿プロジェクト。6月頭、両チームはほぼ同時に「景観計画調査報告書」をまとめて、2地域における作業は終了を迎えた。6月下旬からは、「新宿駅前」「四谷」「落合第二」の3地域に転戦することが予定されている。



報告書より
上/野原助手率いる落合チームのペーパーは、「これでもか」と言わんばかりの圧倒的な情報密度を誇る
下/中島助手監修の筆筈チームは、「ざっくり」と景観構造を伝える意図



text_bannai

本郷まちあるき再び キャンパスの足元に息づく江戸のまち

6月12日午後、都市工学科・学部3年生の授業「都市工学の技術と倫理」の一環で「本郷まちあるき」が行われた。西村幸夫教授を筆頭に、中島、野原両助手、昨年冬の「ベルク本郷まちあるき」の経験メンバーである岡村D3、永瀬D1、鈴木M2、後藤M1らが解説役となり、新M1・7名（伊藤、塩澤、平林、ボンサン、松尾、横田、吉田）は3年生と一緒にそれに関わった。



上/ 本郷通り

参加者は総勢約40名、コースを違えて3グループに分かれた。毎日通っている本郷通りだが、一本道の裏へ入れば、知られざる江戸からの歴史が織り成す繊細な町並みが垣間見える。行き止まりの路地、間口、奥行き、直線道路、階段・・・それらひとつひとつの要素は、まちが語りかけてくるメッセージだ。

text_sh iozawa



- 文豪がかつて住んでいたことを偲ぼせる看板
- 途中で3グループが一緒になる場面も
- 後半、まだまだこれから盛り上がる
- 左手には今は貴重な木造3階建て
これでまち歩きは終了

「私鉄木ベンチ見学会」 都市工の勉強を生かして

OB 酒井憲一（2005年度研究生修了）

農学部へ移ってからキーワード「都市保全計画」「風景」「アメニティ」を忘れず、6月7日には「物理学と美学の人間の融合」をキャッチフレーズに「私鉄木ベンチ見学会」を提案して世話係を務め、生物材料物理学研究室の信田聡助教授ら4名で路線を周回しました。小田急新宿駅から新百合ヶ丘經由多摩線小田急永山まで、間伐材木ベンチの展開状況、そこで京王線に乗り換えて京王永山から京王新宿まで、定期券などのリサイクル製品「エコベンチ」の問題点考察を行い、この間簡易ストレスモニターによる着座快適度測定も行いました。対象をホームの木ベンチに絞ったのは、吹きさらしのホームでの「暖かさ」感触志向だけでなく、風景としてとらえる新しい視点からの実験で、これについてはスト



リートファニチャーならぬステーションファニチャーとしての試案を提示しました。

そして日々美しい風景を損なっていくバス停などのベンチスプロール化の問題も討議しました。

小田急世田谷代田駅には、その美しいデザインから「貴婦人」ともいわれる古いつくりつけのロング木ベンチが残っていました。歴史的環境を重視した都市保全計画と都市デザインを念頭に、そこで記念撮影しました（上写真・帽子は筆者）。

靱チームもそろり始動 港とまちの関係をさぐる2006年度

プロジェクト・チームの現地訪問が相次ぐなか、自主プロジェクト「靱」も、5月からほぼ週に一度のペースで、ごちんまりとミーティングを重ねている。日本の港風景に憧れたタイの留学生コンビ ユイD2、ボンサンM1、今は海なき埼玉県民ながら生まれは瀬戸内・今治の吉田M1、3名の新メンバーを加えて、いざ潮は満ちたりと、ゆるやかに出帆だ。

積年の課題であった「空き家」に『靱雑誌2006』で一区切りをつけた今年度は、「港町にとって港とは何か」をテーマに、靱以外の港町との比較も含めた広い視野で靱を見つめ直す予定。

text_bann ai

に 金兄い結婚おめでとう！ 釜山挙式に同期OB5名集結、友情厚く

6月10日、金宗範M2が釜山のコモドア・ホテルで挙式。交際七年の新妻に、金M2自らエルビス・コストロ「She」を歌い捧げる感動のクライマックス。東京からは、2004年度入学の同期5名（M2 大谷、OB 内山・黒瀬・阪口・田辺）がはるばる式に馳せ参じた。7月発表に向けた修士論文執筆も追い上げ時期に入った金兄い、足場固めはばっちり。

text_bann ai photo_ohtani takahiro



左/結婚の儀
右/バンドのヴォーカルでならした自慢のノドで愛を歌う金兄い<上>に、OB連（右から内山、田辺、黒瀬）はたまらず涙を洩らした<下>

6/10土木計画学会報告 東北大で「夜の都市計画」セッション

坂内 良明（M2）

都市交通研究室の大森宣曉講師らがオーガナイザーを務める企画論文セッション「夜の都市計画」に参加して、研究室会議と同タイトル「ラブホテル街形成の歴史的研究」で発表してきました。「夜」の文字に惹かれた物見高い聴衆80名余を前にして、未だ研究の体を成していない本研究を披露するのは全くもって冷や汗ものでしたが、多くのアドバイスをいただくことができました。

発表を終えて、緑濃い東北大・青葉山キャンパスから小一時間歩いて市街に戻って打ち上げ。セッション参加者はその後、うすぐ研究心抑えられず、東北一の繁華街・夜の国分町へと、調査に繰り出したのでした。



昼は静けき国分町かわい

編集後記 text_sh iozawa

デザイン研マガジンの紙面デザインが新しくなりました。このマガジンの位置づけを、きっとまだ完全には理解できておらず手探りな状態ですが、より多くの人にデザイン研の活動を知ってもらうために、日々精進してまいります。「デザイン」なんて奥深すぎて、このA4紙面の上にとれほどの世界が広がっていることか。「都市デザイン」を名乗るからには、この紙面にも！？そんなことを考えてはいたものの、考えすぎると全くもってこのマガジンデザインが進まなくなってしまうので、それは今回は多めに見ていただきたいと思います。それでもやはり、二次元で展開されえる紙面と3次元で建ち上がる都市空間と、それぞれの魅力に触れることができるのはいい機会だと思っている次第です。